

2021年12月4日

京都教区『カテキスタ養成講座』開設について

福音宣教企画室

1. 「カテキスタ養成講座」開設の経緯

第10回教区宣教司牧評議会（2009年12月）において、「信徒によるカテキスタ養成について検討してほしい」旨の要望が出され、典礼委員会においては、「成人のキリスト教入信」のプロセスについての勉強会がもたれ、入信のプロセスにおける第1期（教会に初めておとずれてから入門式に至る段階）で役割を果たす信徒の養成を、教区として行うことになりました。これが、「求道者に同伴する信徒の養成講座」です。「求道者に同伴する信徒の養成講座」は、2011年～2016年までに5回、2019年～20年には新しい形式で1回開催し、計101名の修了者が誕生しました。

2019年福音宣教企画室に、「カテキスタ」養成の要望が寄せられ、検討を重ね、2021年11月の司教顧問会での承認を得て、「京都教区カテキスタ養成講座」を開設することになりました。

カテキスタは、司祭や修道者が入門講座を担当している小教区・ブロックにおいても補佐的役割を果たしながら、入信の秘跡に至るプロセスで求道者に同伴し、信仰共同体への求道者の参加を補助する役割を果たすことができます。また、受洗後も、代父母、司祭団と連携し、新信者の共同体生活を助け、導くことにより、共同体自身も刷新され、成長していくことが期待されます。

2. 「カテキスタ」とは

- ・カトリック教会の「カテキスタ」とは、おもに洗礼を希望する方々に、キリスト教の概要や教理（カテケジス・カテキズム）などを教える教師のことを指します。
- ・聖職者（司教、司祭、助祭）は職務上、教理を教えることができますが、信徒で教理を教える奉仕者を「カテキスタ」と呼びます。なお、修道者は、教理教育を担当する資質がある場合、司祭から任意でカテキスタとして任命され、小教区での信仰入門講座や聖書講座を指導することができます。
- ・カテキスタが洗礼志願者に対して洗礼前の準備を担当する場合は「教話者」と呼ばれ、洗礼志願式において自分が担当した洗礼志願者の準備ができていることを証言します。
- ・教皇フランシスコは、2021年5月10日、自発教令「アンティクウム・ミニステリウム」（古来の役務）を発表し、カテキスタの奉仕職を制定しました。教皇は、教理教育の奉仕への協力に召されたと感じる男女の信徒たちの存在を認めることが必要であり、カテキスタは信仰の証人・師・同伴者として、洗礼の秘跡の準備から生涯の育成にいたるまで、司牧に奉仕するよう招かれていると説明しています。

3. 養成講座の概要

京都教区のカテキスタ養成講座は、カリキュラムは主に4つのカリキュラムで構成されています。

- ① カトリック教会の教理全般を学習するために、オリエンズ宗教研究所が提供している「カトリック通信講座」にある「キリスト教入門—キリスト教の基礎知識を学びたい方のために—」(全15講)を利用します(*講座目次 別紙参照)。受講者が各自、通信講座を受けます。
- ② 「キリスト教入門」の受講に平行して、京都教区が独自の「グループワーク」を実施します。
- ③ 京都教区独自の補講(4回)
 - ・新約聖書・聖書の読みかた
 - ・第2バチカン公会議(信徒使徒職)
 - ・ミサ
 - ・入信の秘跡
 - ・共同宣教司牧
 - ・都の聖母
 - ・京都教区の歴史
 - ・信者の生活(維持費献金など)
- ⑤ 体験実習(5回)での練習。
★修了式と派遣ミサ、★派遣後は定期的なフォローアップを実施。

3. 受講者の募集について

第1回の講座は、2022年10月からの開始を予定しています。

- (1) 受講資格：ブロック担当司祭より推薦を受けたもの。
 - *「求道者に同伴する信徒」養成講座修了者も応募できます。
 - *受講希望者は、講座終了後、ブロック担当司祭から定められた期間、カテキスタとして奉仕することを誓約します。
- (2) 定員：25名(昼コース15名、夜コース10名)。申込み多数の場合は抽選。
- (3) 受講期間：第1回 2022年10月～ 約18ヶ月間 (木曜日)
- (4) 講座の形式：オンラインと対面のスクーリング
- (5) 講師陣：大塚司教、京都司教区司牧担当司祭
- (6) 受講費用：無料。ただし、オリエンズのカトリック通信講座「キリスト教入門」受講費(含テキスト代(4,800円)の半額は自己負担でお願いいたします。

以上。